

県内企業の景況意識調査

(第198回)

2026年10月

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2026年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

* 2026年 10～12月期〈Ⅳ期〉の見通し

3期ぶりの改善

今期（2026年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、前期比8.9ポイント上昇の▲8.3となった。業種別のBSIは『製造業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善、『建設業』『卸・小売業』の2業種で悪化した。

中東情勢悪化に伴う商品価格上昇により、消費者マインドが冷え込み卸・小売業が悪化したものの、輸送用機械関連企業の好調を背景に製造業が改善し、全体でも3期ぶりの改善となった。

来期（2026年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、今期比12.8ポイント上昇の+4.5となる見通し。業種別のBSIは『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の4業種で改善、『金融・不動産業』『運輸業』の2業種で悪化の見通しである。

受注の増加が見込まれる建設業や、売上、収益の持ち直しが想定される製造業の改善が見込まれており、全体の業況判断BSIは引き続き改善する見通し。

* 2026年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

製造業……………3期ぶりの改善

卸・小売業……………卸売業・小売業ともに悪化

建設業……………3期連続の悪化

サービス業……………3期ぶりの改善も力強さは欠く

3 期ぶりの改善

◎業況判断

【今期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲ 8.3 (前期比+ 8.9㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 17.5% (前期比+ 4.3㊦)
- ・悪くなった 25.8% (前期比▲ 4.6㊦)
- ・変わらない 56.8% (前期比+ 0.4㊦)

＜業種別＞

- ・前期比改善：4業種(『製造業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)
- ・前期比悪化：2業種(『建設業』『卸・小売業』)

今期の業況判断BSIは、中東情勢悪化に伴う商品価格上昇により、消費者マインドが冷え込み卸・小売業が悪化したものの、輸送用機械関連企業の好調を背景に製造業が改善し、全体でも3期ぶりの改善となった。

【来期】(2026年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：+ 4.5 (今期比+ 12.8㊦)

＜内訳＞

- ・よくなる 24.2% (今期比+ 6.7㊦)
- ・悪くなる 19.7% (今期比▲ 6.1㊦)
- ・変わらない 56.1% (今期比▲ 0.7㊦)

＜業種別＞

- ・今期比改善：4業種(『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』)
- ・今期比悪化：2業種(『金融・不動産業』『運輸業』)

受注の増加が見込まれる建設業や、売上、収益の持ち直しが想定される製造業の改善が見込まれており、全体の業況判断BSIは引き続き改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：+ 3.1 (前期比+ 8.3㊦)

3業種で改善

収益BSI：▲ 2.7 (前期比+ 8.6㊦)

4業種で改善

【来期】

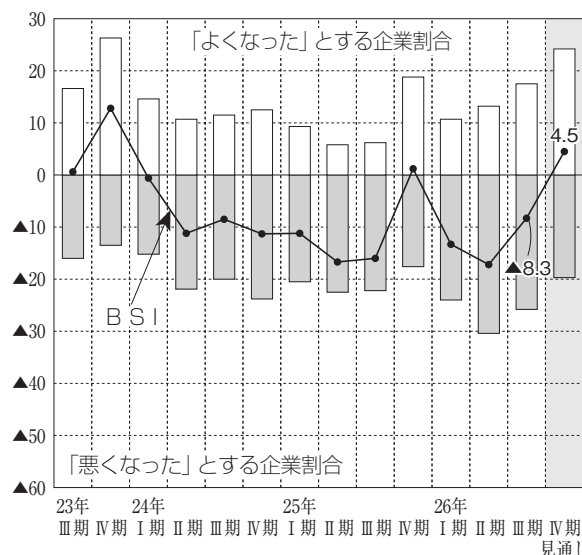
売上高BSI：+ 4.4 (今期比+ 1.3㊦)

3業種で改善見通し

収益BSI：▲ 0.5 (今期比+ 2.2㊦)

4業種で改善見通し

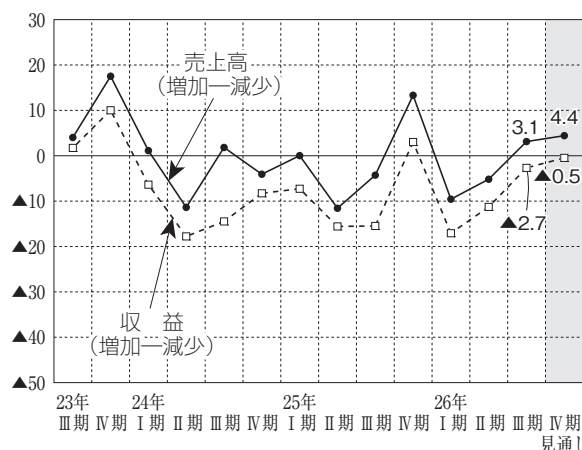
業況判断 (BSI)



業況判断指数内訳 (BSI)

	2026年 Ⅰ期	2026年 Ⅱ期	2026年 Ⅲ期	2026年 Ⅳ期見通し
建 設 業	▲ 5.6	▲15.7	▲27.3	3.1
製 造 業	▲25.7	▲29.4	1.4	12.8
卸・小売業	▲ 8.9	▲ 3.5	▲17.8	▲ 5.1
金融・不動産業	▲25.0	▲14.3	▲12.5	▲25.0
運 輸 業	▲20.0	▲14.3	5.6	▲ 5.9
サ ー ビ ス 業	0.0	▲17.5	0.0	16.7
全 産 業	▲13.3	▲17.2	▲ 8.3	4.5

売上高と収益 (BSI)



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 4.1 (前期比 + 7.1ポイント)

4 業種で上昇

雇用者数の現状 B S I : ▲ 37.5 (前期比 ▲ 6.6ポイント)

4 業種で低下

【来期】

所定外労働時間 B S I : + 2.3 (今期比 + 6.4ポイント)

◎経営上の問題点

1 位 : 「原材料仕入価格高騰」(26.6%)

2 位 : 「人手不足」(18.7%)

3 位 : 「売上不振」(17.7%)

4 位 : 「人材不足」(15.8%)

業種別にみると、「原材料仕入価格高騰」と回答した割合は、『金融・不動産業』が62.5%と最も高い。「人手不足」は『建設業』で44.8%と特に高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合 : 39.1% (前期比 + 2.3ポイント)

4 業種で上昇

<投資目的>

1 位 : 「補修・更新」(69.8%)

2 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」(9.3%)

2 位 : 「合理化・省力化」(9.3%)

【来期】

実施予定企業の割合 : 39.6% (今期比 + 0.5ポイント)

3 業種で上昇見通し

<投資目的>

1 位 : 「補修・更新」(65.5%)

2 位 : 「合理化・省力化」(14.3%)

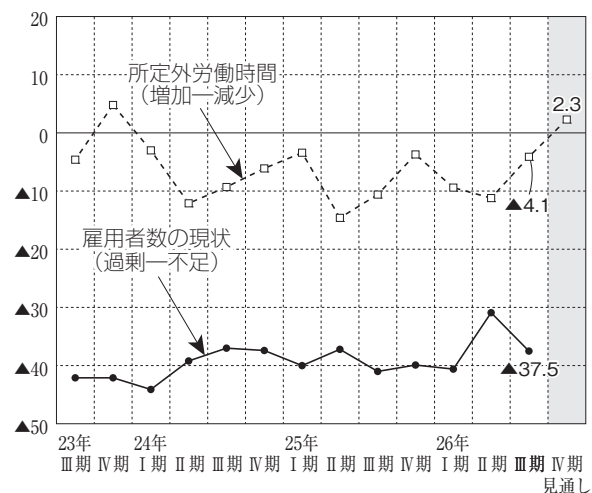
3 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」(11.9%)

◎「ナフサ価格高騰による影響」について

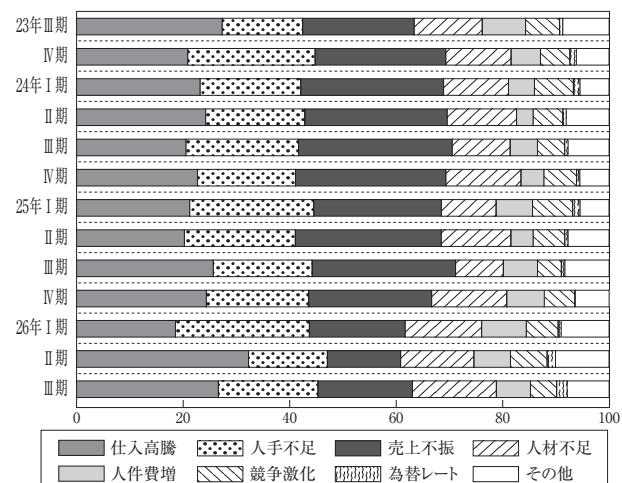
今回の調査において、「ナフサ価格高騰の影響」について尋ねたところ、「やや影響がある」が36.1%、「大いに影響がある」「影響はあるが微少である」がそれぞれ23.5%、「影響は全くない」が6.5%、「分からない」が8.7%となった。

ナフサ不足の影響を無視できない企業（「大いに影響がある」+「やや影響がある」）の割合を業種別でみると、『建設業』『製造業』『卸・小売業』で6割を超えた。中でも建設業は7割を超えており、ナフサ高騰に伴う資材価格上昇に直面している企業が多いようだ。

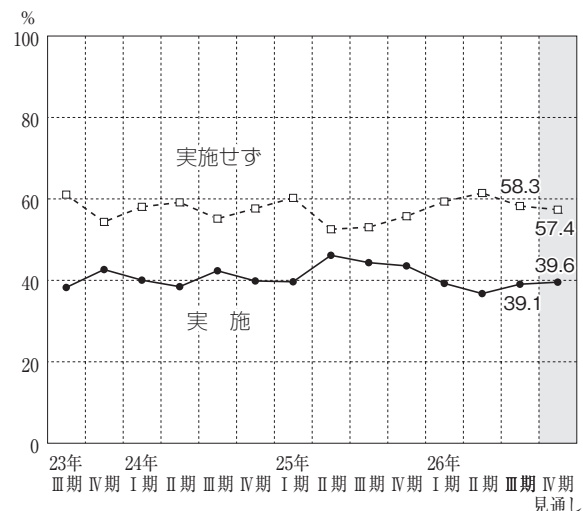
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



3 期ぶりの改善

◎業況判断

【今期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：+ 1.4 (前期比+30.8ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなった 22.5% (前期比+13.2ポイント)
- ・悪くなった 21.1% (前期比▲17.6ポイント)
- ・変わらない 56.3% (前期比+ 4.3ポイント)

＜業種別＞

- ・前期比改善：6業種(「化学・石油」「鉄・非鉄金属」「機械」「食料品」「木材・家具」「その他」)
- ・前期比悪化：2業種(「印刷・出版」「窯業・土石」)

自動車、造船関連企業の好調を背景に「機械」が改善したほか、価格転嫁が受け入れられつつある「食料品」も堅調であり、全体の業況判断BSIも改善した。

【来期】(2026年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：+12.8 (今期比+11.4ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなる 27.1% (今期比+ 4.6ポイント)
- ・悪くなる 14.3% (今期比▲ 6.8ポイント)
- ・変わらない 58.6% (今期比+ 2.3ポイント)

＜業種別＞

- ・今期比改善：6業種(「化学・石油」「鉄・非鉄金属」「木材・家具」「印刷・出版」「窯業・土石」「その他」)
- ・今期比悪化：2業種(「機械」「食料品」)

売上、収益の持ち直しが想定される「鉄・非鉄金属」の改善が見込まれているほか、災害復興需要により「木材・家具」も上向くとみられ、全体の業況判断BSIも引き続き改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：+12.7 (前期比+27.2ポイント)

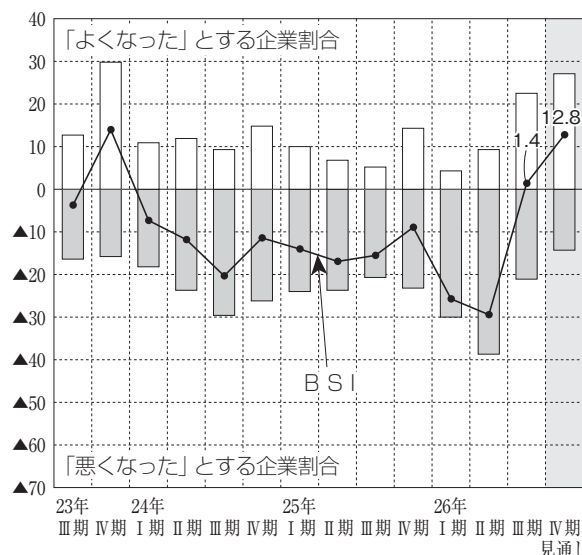
収益BSI：+ 8.5 (前期比+33.5ポイント)

【来期】

売上高BSI：+13.0 (今期比+ 0.3ポイント)

収益BSI：+ 8.7 (今期比+ 0.2ポイント)

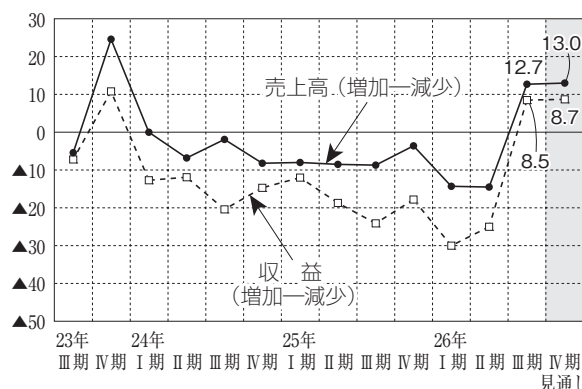
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2026年 Ⅰ期	2026年 Ⅱ期	2026年 Ⅲ期	2026年 Ⅳ期見通し
化学・石油	▲25.0	▲44.0	0.0	11.1
鉄・非鉄金属	▲27.3	▲45.5	▲37.5	25.0
機 械	▲25.0	▲23.8	27.7	23.5
食 料 品	0.0	▲ 6.6	35.3	5.9
木材・家具	▲40.0	▲66.7	▲33.3	33.3
印刷・出版	▲80.0	▲50.0	▲66.7	▲16.6
窯業・土石	▲33.3	0.0	▲40.0	0.0
そ の 他	▲25.0	▲33.3	0.0	20.0
製 造 業	▲25.7	▲29.4	1.4	12.8

売上高と収益 (B S I)



卸売業・小売業ともに悪化

◎業況判断

【今期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲17.2（前期比▲9.5㊦）

<内訳>

- ・よくなった 20.7%（前期比+9.2㊦）
- ・悪くなった 37.9%（前期比+18.7㊦）
- ・変わらない 41.4%（前期比▲27.8㊦）

『小売業』

業況判断BSI：▲18.1（前期比▲18.1㊦）

<内訳>

- ・よくなった 15.2%（前期比▲6.7㊦）
- ・悪くなった 33.3%（前期比+11.4㊦）
- ・変わらない 51.5%（前期比▲4.8㊦）

卸・小売業ともに売上高・収益BSIの悪化等により、業況判断BSIも悪化した。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰を背景に、原材料不足や商品価格の上昇など、影響が広範囲に及び、消費者マインドの落ち込みにつながった。

【来期】(2026年10～12月期〈Ⅳ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲6.9（今期比+10.3㊦）

『小売業』

業況判断BSI：▲3.3（今期比+14.8㊦）

業況判断BSIは、卸・小売業ともに改善の見通し。価格転嫁が進み、収益改善につながる期待感が広がっている。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲20.7（前期比▲13.0㊦）

収益BSI：▲27.6（前期比▲31.6㊦）

【来期】

売上高BSI：▲6.9（今期比+13.8㊦）

収益BSI：▲13.8（今期比+13.8㊦）

◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：+3.0（前期比▲3.0㊦）

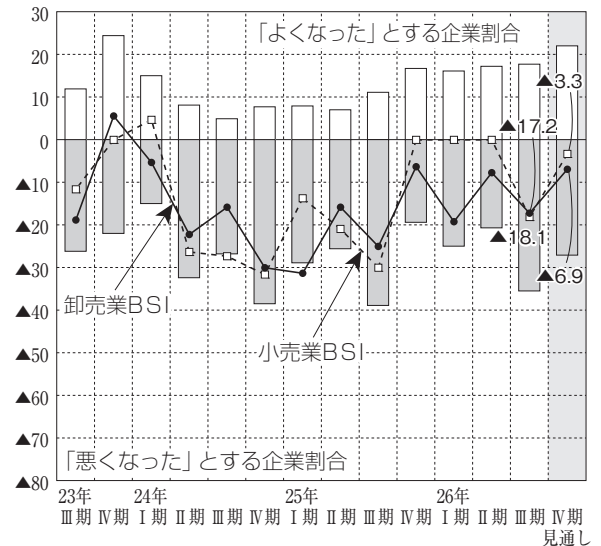
収益BSI：▲12.1（前期比▲9.1㊦）

【来期】

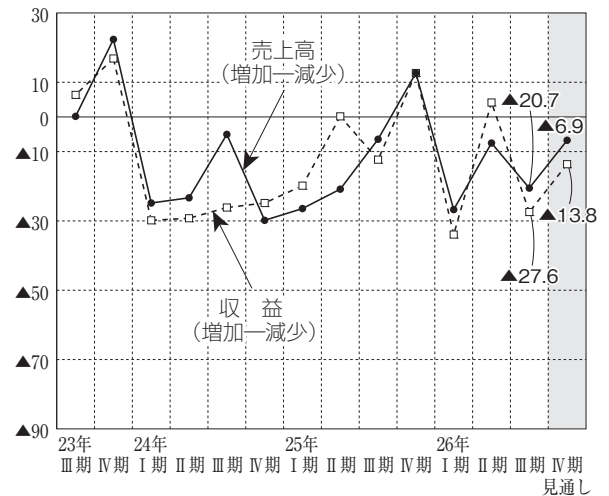
売上高BSI：▲9.6（今期比▲12.6㊦）

収益BSI：▲6.4（今期比+5.7㊦）

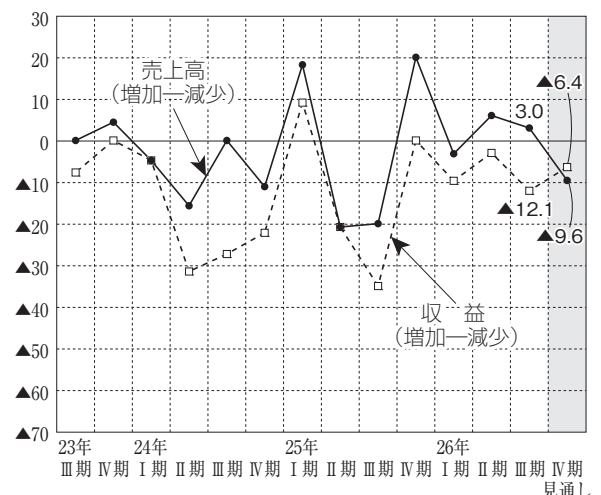
業況判断（BSI）



【卸売業】売上高と収益（BSI）



【小売業】売上高と収益（BSI）



3期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲27.3（前期比▲11.6㊦）

＜内訳＞

- ・よくなった 3.0%（前期比▲12.6㊦）
- ・悪くなった 30.3%（前期比▲ 1.0㊦）
- ・変わらない 66.7%（前期比+13.6㊦）

中東情勢悪化を背景とした建設資材高騰が収益の押し下げ要因となり、業況が「よくなった」と回答する企業の割合が低下し、業況判断BSIは3期連続で悪化した。

【来期】(2026年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：+ 3.1（今期比+30.4㊦）

＜内訳＞

- ・よくなる 21.9%（今期比+18.9㊦）
- ・悪くなる 18.8%（今期比▲11.5㊦）
- ・変わらない 59.4%（今期比▲ 7.3㊦）

来期は堅調な公共・民間投資により受注が増え、それに伴い収益が改善すると見込まれていることから、業況判断BSIも改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲ 5.9（前期比+ 0.3㊦）

収益BSI：▲11.8（前期比▲ 2.4㊦）

【来期】

売上高BSI：▲ 2.9（今期比+ 3.0㊦）

収益BSI：▲ 5.9（今期比+ 5.9㊦）

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI：▲11.8（前期比▲ 5.4㊦）

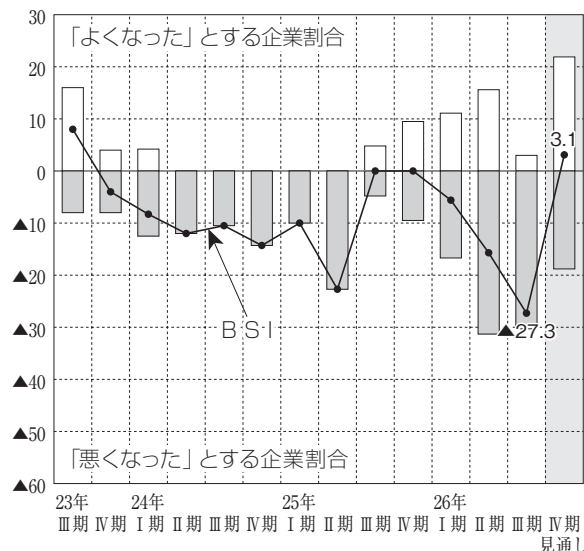
雇用者数の現状BSI：▲70.6（前期比▲ 0.6㊦）

【来期】

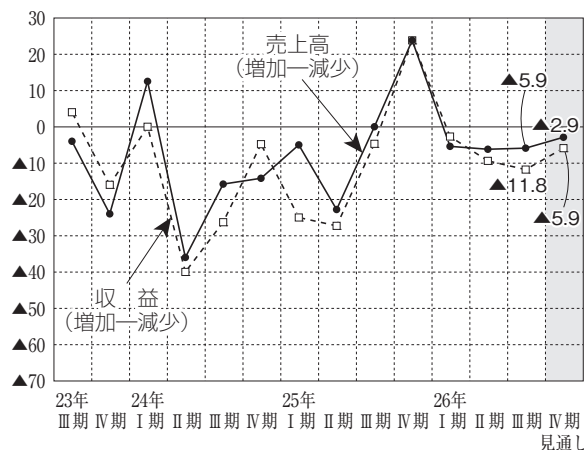
所定外労働時間BSI：±0.0（今期比+11.8㊦）

雇用者数の現状BSIは悪化しており、7割の企業で従業員数が不足していると回答していることから、依然として人手不足感は強い。

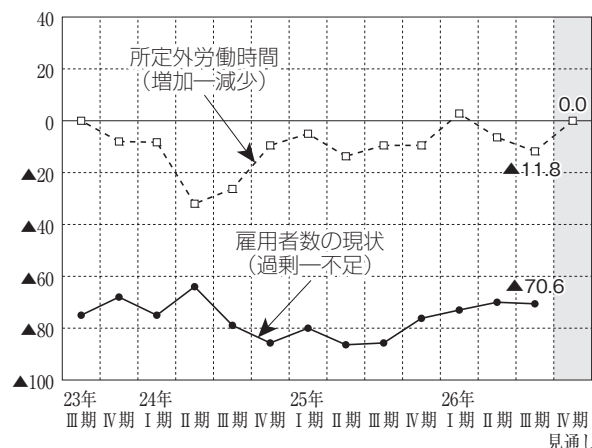
業況判断（BSI）



売上高と収益（BSI）



所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



サービス業

(36社)

3期ぶり改善も力強さは欠く

◎業況判断

【今期】(2026年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：± 0.0（前期比+17.5ポイント）

<内訳>

- ・よくなった 16.7%（前期比▲ 0.8ポイント）
- ・悪くなった 16.7%（前期比▲18.3ポイント）
- ・変わらない 66.7%（前期比+19.2ポイント）

業況判断BSIは大幅改善するも、主因は「悪くなった」の減少であり、力強さには欠ける。

サービス業36社のうち観光関連16社では、夏休み期間に入った影響から「よくなった」が前期比1.2ポイント増の18.8%、「悪くなった」が同10.6ポイント減の18.8%と、改善した。ただし、一部施設では地震の影響がみられる。

観光関連以外の20社では、「よくなった」と「悪くなった」はともに15.0%であった。

【来期】(2026年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：+16.7（今期比+16.7ポイント）

<内訳>

- ・よくなる 30.6%（今期比+13.9ポイント）
- ・悪くなる 13.9%（今期比▲ 2.8ポイント）
- ・変わらない 55.6%（今期比▲11.1ポイント）

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲ 2.8（前期比▲ 0.3ポイント）

収益BSI：▲ 2.8（前期比+ 2.2ポイント）

【来期】

売上高BSI：+19.5（今期比+22.3ポイント）

収益BSI：+11.2（今期比+14.0ポイント）

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

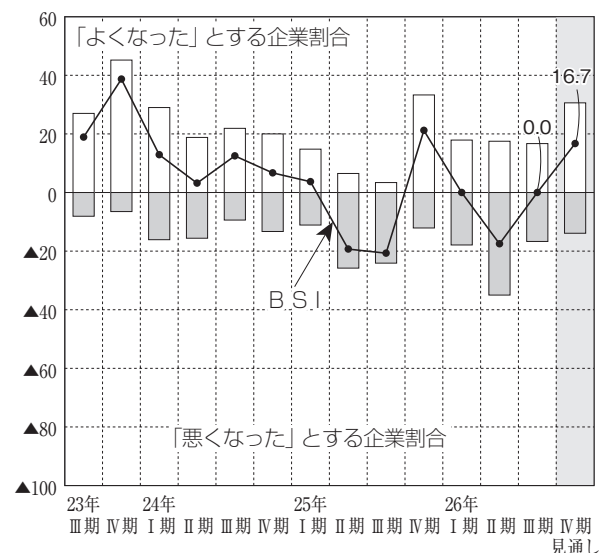
所定外労働時間BSI：▲ 2.9（前期比+14.6ポイント）

雇用者数の現状BSI：▲34.3（前期比+ 8.2ポイント）

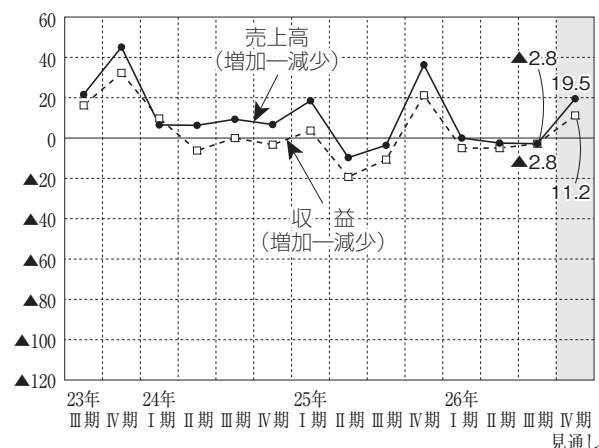
【来期】

所定外労働時間BSI：+ 9.3（今期比+12.2ポイント）

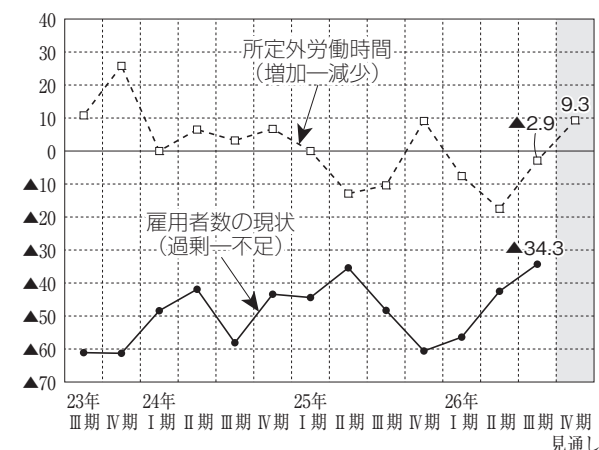
業況判断（BSI）



売上高と収益（BSI）



所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100%とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③ BSI = 〔よくなる〕-〔悪くなる〕

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要	
当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。	
◎調査時点	2026年8月20日
◎調査の内容	・ 自社の景況の実績と見通し ・ 売上高と収益の実績と見通し ・ 設備投資実施割合 ・ 経営上の問題点など
◎調査対象	・ 県内に本社または出先事業所を有する企業415社
◎回答企業数	230社
・ 回答率	55.4%
・ 規模別割合	
資本金1千万円未満・個人	7.4%
資本金1千万円～1億円未満	63.5%
資本金1億円以上	10.9%
無回答	18.3%